

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA アジア大会(ホール審査) 総評 高校生部門

●審査員 A

一部の例外を除き、総じてレベルが低かったと思います。素晴らしい楽曲の美しさを追求するのではなく、極端に速いテンポや力任せの演奏が多かったです。演奏家の目標は、表情豊かな和声進行を浮き彫りにしたり、自然な歌として聞こえるようにメロディを形作ることだということを忘れないようにしましょう。

●審査員 B

地区大会、全国大会そしてアジア大会へと進まれたかたがたの素晴らしい才能を持った演奏を聞くことが出来ました。反面、選ばれて何度も演奏する機会があったにも拘らず正しく楽譜を読んでいない、又は適当に覚えている演奏も多くあり残念に思いました。曲を読み始める時、早い時期に楽譜から離れて練習するのではなく、常によく見て確実に頭に入れる習慣をつける事が大切だと思います。

そして Chopin 自身がどの様な演奏を望んでいたかをイメージしてください。

●審査員 C

バロック（特にバッハ）やウィーン古典派の作品の勉強も欠落しないプログラミングで日々の勉強を進めていきましょう。

どうしても演奏の仕方、技術に意識が行きがちですが、楽器の構造にも目を向けましょう。当時、作曲家達がどのような仕組の楽器を使って作曲・演奏をしたか。またそれが現代の楽器を用いる時にどのように変換しなければならないかを研究してみましょう。

●審査員 D

たいへんエネルギーに満ちた前向きな演奏をたくさん聴くことができとても嬉しく思いました。

一方、「読譜」については、間違いや甘さの目立つ演奏も少なくなかったことは残念です。ショパンは、たいへん緻密に楽譜を記した作曲家でした。楽譜はショパンが私達に残してくれた大切な遺産であり「宝」なのです。ぜひ、その音、音の長さ、リズム、強弱、その他の指示を一つも見逃すことがありませんように。それがショパンの心に近づく道しるべなのです。

●審査員 E

皆様、練習を重ね、積み重ねての成果が表われておりました。

バランス、和声感、テクニック、最終的には音の美しさ、聴衆の心をとらえる演奏を目指してほしいとおもっております。

●審査員 F

全体的には流石にファイナル進出者に相応しくハイレベルな演奏が多くてコンクールと言うことを忘れてショパンの音楽を心から楽しむことが出来ました。

課題はテンポの安定さでしょう。ショパンの作品は勿論変幻自在なルバートやアゴーギクを駆使してしなやかなテンポ、リズムで演奏することが前提ですが反ロマン派の中にあってかなり古典派寄りの均整のとれた自然な流れが不可欠です。つまり不必要で必然性の無いテンポの動きは戒めて下さい。

次に音色の多彩さです。ショパンのあらゆる作品でハーモニーや転調の変化に伴い無限ともいえる音色のパレットが必要です。そのためにタッチの多様性をマスターして下さい。

最後に楽譜の正確な読みがやや疎かになっているケースがありました。もう一度スコアを丁寧に読み返してみてもショパンの書いた正しい記譜を確認して下さい。

しかし皆さんの演奏から若々しくみずみずしい音楽が感じられ将来に大きな可能性を感じました。これからもショパンの作品に数多く向き合ってください。